

# 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 11 月 9 日	
所属部局・職	京都大学理学研究科・修士課程学生
氏名	伊藤杏奈

<b>1. 派遣国・場所</b>
日本、屋久島
<b>2. 研究課題名</b>
フィールド科学実習
<b>3. 派遣期間</b>
平成 26 年 10 月 15 日 ~ 平成 26 年 10 月 21 日 (7 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b>
京都大学野生生物研究センター 杉浦秀樹 准教授、京都大学霊長類研究所 MacIntosh 准教授
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b>
<p>今回のフィールド科学実習は、ヤクニホンザル(<i>Macaca fuscata yakui</i>)とその糞に産卵する数種の寄生虫を題材として、フィールドワークとラボワークの両方を体験することを目的としていた。フィールドワークとしては西部林道にてニホンザルの糞の回収を行い、ラボワークとしては得られたサンプルの処理と糞に含まれる寄生虫卵の観察を行った。</p> <p>【本実習の日程】</p> <p>10 月 15 日 屋久島着、フィールドにてサンプル回収 16 日—19 日 サンプル回収および行動観察 または サンプル分析 20 日 サンプル分析 または 発表準備、成果発表 21 日 屋久島発</p> <p>【フィールドワーク】</p> <p>私は学部生のときに嵐山実習においてニホンザルを観察したことがあった。しかし、嵐山で観察したのはおそらく 1 つの餌付け群のみであったが、西部林道においては餌付け群でない複数の群れを観察することができた。初めの方は嵐山のサルと比較しながら観察していたが、群れの移動が想像していた以上に活発であることに驚いた。路上に長時間滞在しサンプリングがとても容易な群れがある一方で、逆に車中から群れを見つけ、降車して観察を始めた瞬間に森へ入ってしまい観察が続けられないこともあった。群間で人への慣れの程度に大きくちがいがあろうだ。</p> <p>また今回糞を回収するにあたって、道端に落ちている糞を回収するよりも個体が糞をする瞬間を目撃する方が理想的であった。糞の持ち主である個体の情報(性や年齢)をデータ解析に利用するためである。1 日目、初めてサンプル採集に出かけた際には、いつサルが糞をするのか見当もつかなかつたし、年齢の見分けもつかなかつた。しかし、糞をする前には尻尾を挙上している・ケンカの後に排泄が行われる・オスの年齢は精巣の赤さで見分けるなど、観察のコツを教えていただき、視点を絞ることができるようになった。そのため余裕が出て、個体識別も少しできるようになったことが嬉しかった。あごの筋肉が発達することで頭頂部が割れた髪型(「ももかり」というそうだ)の個体や、鼻がなくなっているような個体、傷のある個体など、特徴的な個体は分かりやすく、その他は体型・顔の赤さなどを手がかりにした。</p> <p>幸運なことに回収できたサンプル数に余裕があったため、3 日目からは簡単なフォーカルサンプリングによるヤクザルの行動観察も併せて体験することができた。私は合計オス 5 体の行動観察を通して、グルーミングやけんかなどの社会行動を起こす頻度に大きな個体差があることを実感した。そして、その行動傾向はやはり順位に大きく影響されているようだ。低順位のオスが群れの中心から離れて、樹上で交尾を行っているのを観察したが、それは他のオスに見つからないようにするためであるらしい。それを知ってとても可愛く感じた。今回観察を行ったのはオスのみであるため、メスの行動が順位によってどう変化するのか気になった。</p> <p>【ラボワーク】</p> <p>印象的だったのは顕微鏡で見た寄生虫の卵の美しさである。サンプルの中には、サルの細胞や繊維質のもの、花粉らしきもの、など様々な物質が観察されたが、その中でも卵は際立っていて、すぐ見つけることができるようになった。まったく変形することなく、完全な輪郭を残した姿はとても印象的であった。</p> <p>フィールド実習に延長として用意されているゲノム実習には参加できなかったが、1 つの糞から寄生虫の情報、DNA、ホルモンと多様な解析ができることが興味深かった。</p>

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

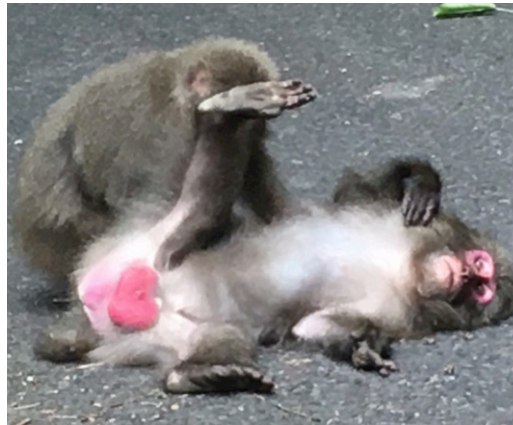
### 【全体を通して】

以上の体験のまとめとして、糞に観察された寄生虫の情報と糞をした個体の情報（性・年齢）の関係に焦点を当ててプレゼンテーションを行なった。10人強という大人数で1つのテーマに取り組む実習であったため、参加者はサンプルの解析、先行研究調査、データ解析、プレゼンテーション作成といくつかの班に分かれて作業することになった。私はサンプル解析班に加わったためプレゼンテーションの作成に大きく貢献できなかったのが残念である。

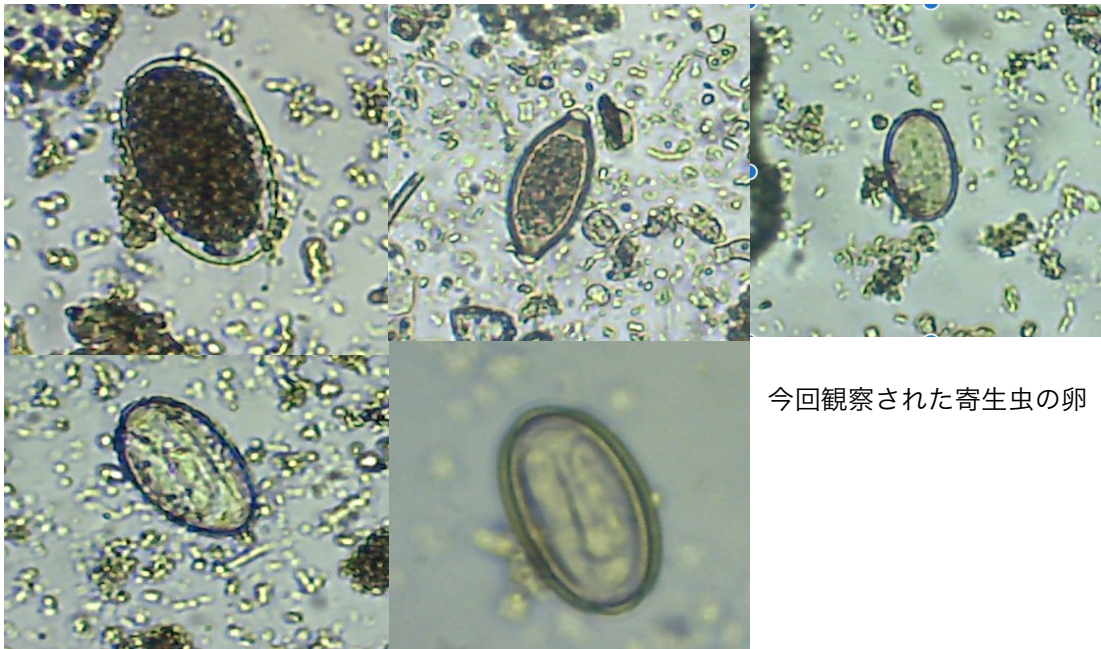
最後に、先生方から教えていただいたり、民俗資料館において学んだ屋久島の民間伝承や祭りの話がとても興味深かったことも記しておく。生物学を専攻している以上、フィールドに出かけるとその土地の生物をメインに知識をもつことになるが、地域独特の文化や伝承などにもこれから目を向けると、フィールド調査に行く楽しみが倍増しそうだ。



森の中のニホンザル



路上でグルーミングされるオス。オスはグルーミングされる時の姿勢が面白い。



今回観察された寄生虫の卵

### 6. その他（特記事項など）

実習中、優しくご指導いただいた杉浦先生、MacIntosh先生、Claire氏、Liesbeth氏に感謝いたします。また、今回の実習を支援してくださったPWSプログラムにも御礼申し上げます。